



ひとりひとりの命を守るために、 10年目の新たなる挑戦。

Background

背景

豊富な資源や人口増加を背景に“資本主義最後の楽園”といわれ熱い注目を浴びるアフリカ。

その東南部に位置するモザンビーク共和国は人間開発指数は189カ国中181位であり、人口の60%は1日の収入がUS\$1.25以下（貧困ライン）の絶対的貧困状態にあり、依然として世界の最貧国の1つである。

PVM（モザンビークのいのちをつなぐ会）の活動地である北部カーボデルガド州は最貧困国の中でも貧困率の高い地域である上、日本を含めた先進国主導による巨大天然ガス開発プロジェクトへの不公平さへの不満の高まりを背景に、イスラム過激派の攻撃が2017年に勃発、2019年から激化している。これまで死者は3,000人を超え、80万人が国内避難民と化している。また90万人が食糧難に瀕しており、深刻化な状況である。

カーボデルガド州では安全な水や食料へのアクセス率が低く、慢性的な栄養不良や病気で5.5人に1人の子供が5歳未満で亡くなる。状況は改善しているものの、スラム地区では7割に近い失業率と問題は山積している。

Concept

理念

**今日を生きるから、未来に生きるへ。
モザンビークで日本の知恵をつないでいく。**

外資の参入が増加し、潤沢なマネーを武器にしたアフリカの新植民地時代といわれる今。

当会PVMは、人々が生き抜くために必要な「知識と知恵」を日本との協力によって注ぎ、モザンビークの貧困層が抱える問題を住民一人ひとりが自らの力で解決できるようサポート。

教育と健康、食、環境等のQOLの改善に努めることで、同じ世界に生きる人々の生命の尊厳の向上に貢献する。

2013年で設立10年。NGO活動の持続とコミュニティの強化のための挑戦を開始！

Contact : may@tsunagukai.com

■日本事務所住所

〒800-0233 北九州市小倉南区朽網西三丁目12-6
 電話&FAX 093-472-1444 (ミズフチ)

■ベンバ事務所住所

Rua sem Saida, Bairro de Natite, Pemba, Cabo Delgado, Mozambique zip:3200
 榎本恵 携帯電話 +258-86-513-0004 寺子屋ディレクター・ナジャ携帯電話 +258-87-7417034

2 Direction

<2022年～2026年> 中期計画書

Slogan

スローガン

小さいけれど、チカラ持ち！

Small but Mighty!

PVM（モザンビークのいのちをつなぐ会）は、NGOの参入がない最貧困地で草の根活動を続ける小さな団体です。コミュニティとスタッフの力を結集し、真に実効力のある活動を実直に展開しています。

- PVMは、支援代理機能や中間支援行為ではなく、**ダイレクト**に貧困地域への支援活動を行う草の根団体である。
- PVMは、現地スタッフ総勢100名と共にあくまでも**支援地域の貧困者を主役**にした活動を行う。活動の人力、物品の購入も精一杯、地域の人とモノを活用し、**コミュニティの経済活動の活性**に貢献できるよう努める。
- PVMは、先進国の論理と後進国のニーズの不調和を生み出さない。**現地と未来にほんとうに必要なもの**をコミュニティの人たちと話し合い整備する活動を行う。

Direction

2022年からの方向性

これまでの課題

財務

寄付金が少ない

- ・助成金に依存率8～9割
- ・定期的寄付者15名
- ・モザ及び当会の知名度低い

寄付広報戦略が必要

組織

人件費不足、負担大

- ・配食費をスタッフが手出し
- ・助成金では人件費計上限界
- ・固定費拡大に適する資金繰り

スタッフに健全な生活を

活動

緊急支援や奨学金ニーズ

- ・子どもたちへの配食等持続的な活動
- ・年長組や青年が進学希望し初めている
- ・技能習得等の新たな活動も必要

継続的な活動の展開段階へ

方向性

子どもの夢サポートと、モザンビークスタッフを守るため、資金調達を強化

寄付広報に注力。資金基盤の安定化

小さな商いプロジェクトで、経済を回す

設立10年目の新たなステップ。これまでの教育、公衆衛生、環境保全、そして緊急支援であるテロ紛争被災者支援を発展、継続しながら、失業率が7割を超えるスラムのコミュニティの経済を「小さな商いプロジェクト」で回し、現地の人たちの収入の確保と社会支援活動への利活用を両立させていく。モザンビークや当会の認知度を高めるためのメディア露出にも挑戦していく。

Vision

2026年のビジョン

- 1：疾病やテロ紛争で誰ひとりとして失うことない環境が出来ている。
- 2：寺子屋を卒業した子どもたちが進学し、寺子屋の教育もサポートしている。
- 3：起業する青年もおり、スラムから事業が幾多も創出されている。
- 4：スタッフ150人が、毎日三食食べ、自分や家族、地域の未来に投資できる。

3 Flowchart

< 2022年~2026年 > 中期計画書

< 中期目標 >

子どもたちと現地スタッフの夢をサポート出来る仕組みを整え、
かつコミュニティの経済と社会支援の循環を創る。

	これまでの成果	2022年	2023年	2024年	2025年~2026年
事業目標	事業継続 スタッフを95名に 強化	各施設の安全確保 ペンバ及びナンブラ 寺子屋と避難民の家の 設備整備	小さな商いプロジェクト のための基盤構築 人材教育と資機材見積 資金調達	小さな商いプロジェクト を軌道に乗せていく 可能な事業からスタート し、運営の安定化を図る。	支援・事業活動の循環 寄付、事業創出、 社会活動への還元 への循環形成
課題	スタッフが手出して 配食活動を行い 負担が増大。	スタッフが健やかに暮らしていくための人件費の確保			
特に注力する 分野	テロ被災者支援	避難民の家整備 水環境の整備	奨学基金の設置 小さな商いプロジェクト	小さな商いプロジェクト 資金調達、事業化	技術習得 制度づくり
事業活動	スタッフ95名	スタッフ105名	スタッフ115名	スタッフ130名	スタッフ150名
教育・寺子屋 (ペンバ、ナンブラ)	コミュニティと テロ避難民の 子どもたち 約300名が通所 <small>ナンブラ寺子屋はテロ 終息後、規模縮小。</small>	教育:道徳を基盤にした読み書き、算数、英語、工作、音楽、平和教育等の教育の継続 配食活動 (1日1食以下率15%⇒皆が1日2食は摂取できるように)			
		・ペンバ寺子屋井戸修理 ・ナンブラ寺子屋井戸設置 ・防犯の強化	・状況に合わせて、平和教育、ICT教育、国際交流等を重点教育にする。	奨学基金設置	
公衆衛生	細菌ウイルス等 感染症死亡率低減	毎年、公衆衛生教育(手洗い、歯磨き、うがい、爪切り等)、保健管理を実施していく。			
		コロナ対策	HIV予防対策教室		
環境保全	ペンバ美化活動 食べられる緑化 環境WS	ペンバ環境美化活動			
		省エネプロジェクト	海洋プラスチック対策		
テロ被災者支援	避難民の家 配食、衣料配布	避難民の家の水環境及び 設備整備、居住本格開始	国際船便が再開し次第、衣料等を福岡から ペンバへ随時輸送		避難民の家をコミュニティの 場・市場として活用
国際相互理解	講義講演活動	日本・欧州での音楽・文化イベントの実施			
その他	農業等	テロ紛争が終息後、有機農業活動を農村地区で再開(テロ直接攻撃のため2018年から中断している)			
【NEW】 小さな商い プロジェクト		想定事業の具体化 資機材の見積 資金調達	運送 食堂	パン屋 美容室	自動車整備 裁縫
組織活動					
優先事項		ペンバ共同組合での 助成金がし	海外の助成金活用 スタッフ研修	海外助成金強化 スタッフの国内外研修	団体内起業制度の 導入
取り組み	一般社団法人設立 ペンバ共同組合設立	・中古車(SUV)購入 ・カーボデルガド州の NGO探し	・ODAを利用を考慮 ・現地NGOと連携	・研修システム構築 ・中古車2台目確保	・中古車3台目確保 起業制度導入
		コロナ終息後、欧米機関との面談(ポルトガル、フランス、スイス等)			
		縦横のネットワークが不足しているため、毎年、JICAや大使館と面談する。			
広報	月刊ニュースレター (480人) 企業情報誌(2社) SNS (FB, Insta) HP	・企業とタイアップ寄付	・クラウドファンディング		・Youtube収益化 ・定期寄付100名 ・海外メディアルート の開拓
	これまでの成果	2022年	2023年	2024年	2025年~2026年

Prospect

見 通 し

モザンビーク北部唯一の日本の草の根NGOとして。
コミュニティの相互扶助力を高める支援活動を、地道にしっかりと歩み続けるために。

2023年度には設立から10年目となるPVM=モザンビークのいのちをつなぐ会。

これまで猪突猛進で活動を展開し、主要活動であるスラムの学舎・ペンバ寺子屋も現地に定着し、各プロジェクトに携わるスタッフは100名近くまで増加している。

一方で、寄付に依存できず助成金を主とした資金で活動を展開しており、人件費が捻出できない上に、捻出できた人件費から、テロ被災者支援活動に拠出する等、活動すればするほど当会スタッフの生活が厳しくなる状況に陥っているため、「小さな商いプロジェクト」を柱として、現地で人件費と支援資金を作りながら、コミュニティのQOLを高めると同時に経済循環にも貢献する活動に力を注ぐ。

一方、2017年に勃発し、2019年から激化しているイスラム過激派の攻撃は依然続いており、2020年1月には当会設立以前から協働してきた公私ともに大切な仲間が攻撃に巻き込まれ、今もなお行方不明のままである。イスラム過激派の攻撃は範囲を拡大していることが最も懸念する事案である。

スラム地区に居住する非アフリカ人は当会代表のみでありスラム地区にイスラム過激派が混在しているため、かつテロ被災者支援への資金の優先度を取り、2020年から当会代表の渡航を控えているが、治安が安定しかつ渡航資金が出来次第、現地で人材育成に注力していく。

Strategy

計 画

2022年度

テロ紛争が続き治安が悪化している為、防犯、車両、水設備の強化を優先。

【事業目標】 ペンバ寺子屋、ナンプラ寺子屋、避難民の家（Casa de Paz）の安全確保

【特に注力する分野】 避難民の家の整備（居住エリアの整備、トイレや水道の水設備の整備）

【各活動の主な取り組み】 スタッフ105名

<教育活動> ●教育・配食活動継続 ●ペンバ寺子屋井戸と防犯扉修理、設備整備
●ナンプラ寺子屋水環境、設備整備

<公衆衛生活動> ●公衆衛生教育継続 ●コロナ対策

<環境保全活動> ●ペンバ環境美化活動 ●省エネプロジェクト

<テロ被災者支援活動> ●避難民の家の整備と居住開始 ◎国際船便再開し次第、支援物資輸送

<国際交流活動> ●日本・欧米での音楽と文化イベントの実施（但し、当会はコロナ自粛派）

<その他> ◎テロが終息し農村地区の安全が確認された後、農村で有機農業を再開

<小さな商いプロジェクト> ●想定事業の具体化、資機材の見積り、資金調達

【組織活動の優先事項】 ペンバ共同組合での助成金さがし

<取り組み> ●中古車（SUV）購入 ●カーボデルガド州現地草の根NGO探し

◎コロナ終息後、欧米機関との面談（ポルトガル、フランス、スイス等）

◎JICA、大使館とのアライアンスづくり

<広報活動> ●企業とのタイアップ寄付

◎動画作成習慣づけ、Youtube及びSNS投稿（モザンビークと日本で撮影編集）

◎小冊子Ver. 3～毎年制作し、モザンビーク進出企業及び福岡の企業等に郵送

◎政治家ルートの開拓 ◎メディア、芸能事務所との打ち合わせ

5 Strategy

< 2022年～2026年 > 中期計画書

2023年度

安全第一で、「小さな商いプロジェクト」の基盤づくりに着手。

【事業目標】 小さな商いプロジェクトのための基盤構築
⇒人材教育と資機材見積り、資金調達

【特に注力する分野】 奨学金基金の設置、小さな商いプロジェクト

【各活動の主な取り組み】 スタッフ115名

- <教育活動> ●教育・配食活動継続 ●奨学金基金設置
◎状況に合わせて、平和教育、ICT教育、国際交流等を重点教育にする
- <公衆衛生活動> ●公衆衛生教育継続 ●HIV対策
- <環境保全活動> ●ペンバ環境美化活動 ●省エネプロジェクト ●海洋プラスチック対策
- <テロ被災者支援活動> ●避難民の家の管理 ◎国際船便再開し次第、支援物資輸送
- <国際交流活動> ●日本・欧米での音楽と文化イベントの実施（但し、当会はコロナ自粛派）
- <その他> ◎テロが終息し農村地区の安全が確認された後、農村で有機農業を再開
- <小さな商いプロジェクト> ●運送（トラック購入） ●食堂（寺子屋か避難民の家でスタート）

【組織活動の優先事項】 海外の助成金活用、スタッフ研修

- <取り組み> ●ODA利用するか否かの検討 ●カーボデルガド州現地草の根NGOとの連携
◎コロナ終息後、欧米機関との面談（ポルトガル、フランス、スイス等）
◎JICA、大使館とのアライアンスづくり
- <広報活動> ●クラウドファンディング
◎動画作成習慣づけ、Youtube及びSNS投稿（モザンビークと日本で撮影編集）
◎小冊子Ver. 3～毎年制作し、モザンビーク進出企業及び福岡の企業等に郵送
◎政治家ルートの開拓 ◎メディア、芸能事務所との打ち合わせ

2024年度

人材育成を強化し、「小さな商いプロジェクト」の定着強化を図る。

【事業目標】 小さな商いプロジェクトを軌道に乗せる
⇒可能な事業から順次スタートし、運営の安定化を図る。

【特に注力する分野】 小さな商いプロジェクトの資金調達・事業化

【各活動の主な取り組み】 スタッフ130名

- <教育活動> ●教育・配食活動継続 ●奨学金基金設置
◎状況に合わせて、平和教育、ICT教育、国際交流等を重点教育にする
- <公衆衛生活動> ●公衆衛生教育継続 ●HIV対策
- <環境保全活動> ●ペンバ環境美化活動 ●省エネプロジェクト ●海洋プラスチック対策
- <テロ被災者支援活動> ●避難民の家の管理 ◎国際船便再開し次第、支援物資輸送
- <国際交流活動> ●日本・欧米での音楽と文化イベントの実施（但し、当会はコロナ自粛派）
- <その他> ◎テロが終息し農村地区の安全が確認された後、農村で有機農業を再開
- <小さな商いプロジェクト> ●パン屋（機材購入） ●美容室（資機材購入）

【組織活動の優先事項】 海外の助成金強化、スタッフの国内外研修

- <取り組み> ●研修システム構築 ●中古車2台目調達
◎コロナ終息後、欧米機関との面談（ポルトガル、フランス、スイス等）
◎JICA、大使館とのアライアンスづくり
- <広報活動> ●クラウドファンディング
◎動画作成習慣づけ、Youtube及びSNS投稿（モザンビークと日本で撮影編集）
◎小冊子Ver. 3～毎年制作し、モザンビーク進出企業及び福岡の企業等に郵送
◎政治家ルートの開拓 ◎メディア、芸能事務所との打ち合わせ

2025 - 2026年度

コミュニティの経済と社会支援の循環が始まる。

【事業目標】 社会支援と事業活動の循環

⇒寄付、事業創出、社会活動への還元への経済循環形成。

【特に注力する分野】 技術習得制度づくり

【各活動の主な取り組み】 スタッフ150名

<教育活動> ●教育・配食活動継続 ●奨学金基金設置

◎状況に合わせて、平和教育、ICT教育、国際交流等を重点教育にする

<公衆衛生活動> ●公衆衛生教育継続 ●HIV対策

<環境保全活動> ●ペンバ環境美化活動 ●省エネプロジェクト ●海洋プラスチック対策

<テロ被災者支援活動> ●避難民の家をコミュニティの場・市場として活用

<国際交流活動> ●日本・欧米での音楽と文化イベントの実施(但し、当会はコロナ自粛派)

<その他> ◎テロが終息し農村地区の安全が確認された後、農村で有機農業を再開

<小さな商いプロジェクト> ●自動車整備 ●裁縫

【組織活動の優先事項】 団体内起業制度の導入

<取り組み> ●中古車3台目調達 ●起業制度導入

◎コロナ終息後、欧米機関との面談(ポルトガル、フランス、スイス等)

◎JICA, 大使館とのアライアンスづくり

<広報活動> ●クラウドファンディング

◎Youtube収益化 ◎定期寄付100名 ◎海外メディアルートの開拓

